

助成します！

## 子宮頸がん・肺炎球菌のワクチン

保健推進課 ☎61-3315

11月1日から、子宮頸がん、小児用肺炎球菌のワクチン接種料金を、市が全額助成します。

助成を受けるには申請が必要です。保健推進課（元気の泉）または各支所に申請書を提出してください。

ワクチンは、助成決定通知書が届いてから下記の指定医療機関に予約をし、接種を受けてください。

### 子宮頸がん・対象

子宮頸がんは、検診と予防ワクチンの接種で、ほぼ防ぐことができるとわれています。

助成するのは子宮頸がんの発症率が高いウィルスの感染を防ぐワクチンです。

- 対象…中学2・3年生（来年度は中学1・2年）
- 接種回数…3回
- 申請書…各中学校と保健推進課で配布

### 小児用肺炎球菌・対象

肺炎球菌は、子どもの体力が落ちたときなどに、肺炎などを引き起こします。

助成するのは、細菌性髄膜炎など重い感染症を予防するワクチンです。

- 対象…生後2カ月～5歳未満
- 接種回数…1～4回（年齢による）
- 申請書…保健推進課、社会福祉課、市民課、各支所と各医療機関で配布

### 接種指定医療機関

子	肺	医療機関
●	●	岩手県立久慈病院
●	●	国保山形診療所
●	●	白岩小児科医院
●	●	竹下産婦人科医院
●	●	ちだ医院
●	●	市川内科医院
●	●	金子クリニック
●	●	久慈恵愛病院
●	●	斎藤内科

※「子」は子宮頸がん、「肺」は肺炎球菌。●印が指定機関です  
※申請には印鑑が必要です



## 診療所に高橋医師着任

国民健康保険山形診療所 ☎72-2033



抱負 高橋昌洋 医師

新たな挑戦に気持ちを引き締めています。患者さんや地域の皆さんが少しでも不安なく過ごせるよう地域医療に貢献したいと思います。よろしくお願いたします。

【主な経歴】56歳。秋田県出身。福井医科大学（現・福井大学）医学部を卒業し、昭和62年に医師免許を取得。内科医として、福島県内を中心に神奈川県や山形県などの医療機関で勤務した

11月1日付で、国民健康保険山形診療所（細井信夫所長）に高橋昌洋医師が着任しました。

秋田県出身の高橋医師は昭和62年に福井医科大学（現福井大学）を卒業。複数の医療機関の内科勤務などを経て、平成20年5月からは福島県内の公立小野町地方総合病院で

### 頼もしい力加わる

診療にあたってきました。今回、高橋医師が長い間抱えてきた「地域医療の現場で社会貢献したい」との思いと、岩手県医療局の医師確保活動が一致し、診療所に勤務いただくことになりました。

高橋医師の着任によって、市民の健康と命を守る診療所に頼もしい力が加わることになり、健康づくり意識のさらなる高揚が期待されます。



## てらさと団地 募集開始

建築住宅課 ☎52-2120・産業建設課 ☎72-2129



てらさと団地の概要

- 壁式鉄筋コンクリート造3階建
- 敷地面積 2,597㎡
- 延床面積 1,931㎡
- 総事業費 5億3,000万円
- 各階8戸 計24戸
- 3DK66.7㎡（6戸）
- 2DK59.1㎡（18戸）
- ユニットバス、トイレ、ダイニングキッチン、サンルームなどが全戸に備わっています



広く、段差のない部屋。トイレや浴室、玄関には手すりも付いています

### 暮らしやすさ配慮

昨年8月から工事を進めていた「てらさと団地」が11月10日に完成予定。旧栄町地区住宅の入居者分を除く5戸について、入居者を募集します。

てらさと団地は3階建てで全24戸。部屋はバリアフリー設計で段差はなく、各所に手すりが付くなど、暮らしやすさに配慮しています。

### 【入居者募集中の市営住宅】

住宅名	戸数	家賃（月額）
てらさと団地	5戸	20,100円～29,900円
宇部和野平地区住宅	1戸	2,000円～3,000円
萩ヶ丘地区住宅	2戸	4,300円～6,400円

▶申し込み…11月15日（月）まで



田村栄一郎さんの卒寿記念顕彰碑を建立

## 故郷の祝福温か 笑顔で喜び



感謝 田村栄一郎 さん

このように祝ってもらえて"まさか"という思いです。みんなにお世話になり、ここまでできました。教え子も来てくれてうれしい。本当にありがとうございました。

【主な経歴】教職、野田村教育長を歴任するなど教育振興に尽力。郷土史の発掘にも情熱を注ぎ、多くの論考を発表。砂鉄資料館「たたら館（平成20年閉館）」を開設し、全国に久慈の鉄文化を発信した

教師として教育振興に努め、琥珀やたたら製鉄など郷土史の発掘にも力を注いだ田村栄一郎さん（夏井町出身・栃木県宇都宮市在住）の卒寿（90歳）記念顕彰碑除幕式は9月25日、長福寺で開かれました。顕彰碑は、田村さんを慕うくんのこほっば愛好会などの5団体や、教え子、関係者で実行委員会（山王敏男会長）を組織して建立。除幕式には約80人が出席し、田村さんと再会と顕彰碑の完成を喜びました。

除幕式で、安全祈願などを行った後は、市内催事場に移動し、完成を祝う会を開催。山王会長は「教育者としてわたしたちを導き、郷土史家として調査研究を続けた先生の活動は、地域の財産です。顕



顕彰碑の前で田村さん（中央）を囲み記念写真

彰碑の建立が地域の文化醸成の一助になることを祈ります」とあいさつ。田村さんには記念品として顕彰碑をデザインした盾と花束が贈られました。

元気に迎えた節目の90歳。田村さんは、故郷の温かい祝福に笑顔で浮かべて喜んでいました。



バッテリー村開村25周年感謝祭

## ファン集い 自然の中で交流深める



抱負 木藤古徳一郎 村長

協力してくれた方と、自然の恵みへの感謝の気持ちでいっぱいです。人との交流が一番大切。学生との交流に始まり、25年で全国から人が集まる地域になりました。

今後は各団体と連携して知恵を出し合い、地域を盛り上げていきたいです。将来も人が集う地域であり続けるために後継者も育てたいですね。

バッテリー村（木藤古徳一郎村長）の開村25周年記念感謝祭は9月26日に開かれ、市内外から多くのバッテリー村ファンが集いました。

記念行事では、バッテリー村同様に山村活性化に向けて活動する、どんぐり村（二戸町）の赤屋敷信一村長、森と風の学校（葛巻町）の黍原豊事務局長、森のそば屋（同）の高家卓範プロデューサーを交えて意見交換会を開催。青空の下、いろいろを囲み、それぞれの活動に対する思いや夢を熱く語り合いました。

終了後は、恒例の全国縄な選手権大会も開催。経験者も初心者も一緒になって、自然の中で交流を深めました。家族で訪れた下館智子さん（山形町）は「人が集まり続



熱く夢を語り合った意見交換

けるのは魅力があるから。地元に住んでいても、ここに来るとほっとします」と笑顔。山村交流について研究している山田義人さん（岩手大学4年）は「バッテリー村は人が自然に集まる所。これからは、地元にあるものを大切にしていってほしいです」とエールを送っていました。